

■日 時：平成 27 年 11 月 28 日（土）午後 3 時 00 分から午後 5 時 20 分まで

■場 所：四日市商工会議所 3 階 大会議室

■出席者：【委員】

有賀隆委員、岡田邦彦委員、黒部三樹委員、小柴正浩委員、恒川和久委員

【ゲスト・スピーカー】野村愛一郎様、久安典之様

【行政職員】

藤井副市長、館政策推進部長、須藤商工農水部長、

佐藤商工農水部次長・商業勤労課長、小林市民文化部理事・文化振興課長、

荒木政策推進課長、川尻都市計画課長、松岡教育総務課長

■内 容

◆あいさつ

藤井副市長

- ・中心市街地活性化は、これまでも、市は、総合計画に位置付けるとともに中心市街地活性化基本計画を策定して推進を図り、商工会議所もグランドビジョンを策定するなど、取り組みを進めてきたところである。
- ・今回の検討会議は、市が予算化を図り施設整備を行うことも視野に入れた、より具体的な活性化方策を策定することを目的として設置したものである。
- ・委員の皆様は、四日市にゆかりがあり、その分野のプロということで、それぞれの立場の知見からご意見を賜りたい。

1. 委嘱状の交付

副市長から各委員へ交付

2. 委員長の選出

有賀隆委員が委員長に選出される

<委員長就任のあいさつ>

- ・都心の再生・活性化は、日本のみならず、戦後、ヨーロッパやアメリカを含め世界共通の課題となっている。
- ・とりわけ、歴史のある文化的な積み重ねのある都市にとって、それらを継承するのか、あるいは、変化・革新をしていくのかなど、それら 2 つをどのように具体化させていくかがまさに活性化の戦略であるといえるのではないかと。
- ・また、その戦略には、地域との協働、行政、議会を含めまちづくりの担い手達の連携が重要である。
- ・中心市街地活性化基本計画に示された方針に基づき、より具体的な方策策定に向け、各委員におかれては、それぞれの専門的見地から意見をいただきたい。

3. 中心市街地活性化推進方策について

(1) 中心市街地の現状について

佐藤次長より資料に基づき説明

<質疑>

A委員 イベントは、一過性のものに留まらず、地域におけるコミュニティ形成等に資するべきであると考え。その観点から、中心市街地内で行われているイベント等の実施主体を伺いたい。

事務局 エキサイト四日市バザール、四日市まちなかバル、秋の文化財行列、まちなか文化祭、四日市よさこい祭り、イルミネーションについては、商店街が実行委員会形式で実施。
大四日市まつりは、市が実行委員会形式で実施。
JAZZフェスティバルは、市の外郭団体である(公財)四日市市文化まちづくり財団が実行委員会形式で実施。

委員長 商店街等各実施主体の性格や特徴がイベントには反映されているか。

事務局 商店街・実施主体の特性を活かしたものになっていると考える。

B委員 今回の推進方策の内容の一つに、施設整備の可能性がある。市民アンケートなど一般市民の声を資料として提供いただきたい。

事務局 次回、提供する。

D委員 推進方策の策定にあたり、地方創生総合戦略と連携することとなっているが、現時点で、総合戦略の基本方針や、中心市街地活性化に関わる重要な事項があれば、情報提供いただきたい。

四日市市 大きく4つの基本方針がある。
①産業活性化によって地域経済の振興を図る ②子育て環境の整備
③高齢化対策 ④四日市の魅力を磨き情報発信し、観光プロモーションへも繋げていき、交流人口を増やす。
中心市街地活性化については、基本方針④に位置付けていく予定。

(2) 意見交換

A委員

・公職で現在最も注力しているのは、日本ど真ん中祭り(以下、「どまつり」という)

の仕事である。

- ・まつりは、地域のコミュニティや絆づくりの場であり、東日本大震災においても、まつりのコミュニティによる互助の精神が復興に役立ったと聞いている。
- ・どまつりの事例を通じ、これからの時代に、中心市街地の活性化に結び付く重要な事項について提案したい。
 - ①グローバル化、国際化を進め、他地域からの交流人口を増加させる。
 - ②単身赴任をしていた人達が定年を迎えて地元へ帰ってきており、これらリタイヤした人達の能力が発揮できる場とする。⇒ボランティア通じた自己実現の場
 - ③年齢別、性別などより細かくニーズを探る必要がある。
 - ④女性が活躍できる場とする。例えば、どまつりは、参加者の多くが女性であり、主役である。これは、これまでの祭りの概念とは真逆である。
 - ⑤「観光に三物有り」という、風物、産物そして、もてなしの心（人物）が重要。観光客も交流人口として捉えるべきである。
- ・ハードありきで検討をすすめるのではなく、ソフトを入れるための器としてハードを作るべきである。

B 委員

- ・四日市との関わりとしては、三井不動産が運営する駅西のラスクエアがある。
- ・都市の再生に関連して、三井不動産の取り組み事例を紹介したい。
- ・三井の本拠地日本橋から、1999年に東急百貨店が撤退することに危機感を感じ、日本橋を復活させようというプロジェクトを15年ほど前から実施している。
- ・日本橋には、老舗の良いお店がある一方で、経営は旧態然としているという面もある。
- ・良い伝統は受け継ぎ、現代にそぐわなくなったものについては変化・進化する必要がある
- ・図書館など、集客力のある施設を中心市街地に創るというのも有効な策の一つであると思う。

D 委員

- ・大学では、名古屋大学の施設マネジメントから始まり、現在は、公共施設のアセットマネジメントの分野で東海地域のいくつかの地方自治体に関わっている。
- ・自治体で良く見受けられる、財政難を理由とした施設の廃止は、公共施設に求められることへの議論が置き去りにされており本質的な議論になっていない。
- ・施設が市民生活にどのように価値を生み出しているのかということが重要である。
- ・図書館については、蔵書（規模）が直接集客力に比例する。また、距離に反比例する。
- ・今、図書館は、本を貸し出しする施設から、施設としての魅力をより高めるために、音楽や美術など他の分野との複合施設として設置される傾向にある
(事例) 一宮市図書館、岡崎市図書館、仙台メディアテーク

- ・ロンドンは、図書館のコンセプトを居場所と捉え直し、図書館からアイデア・ストアという名称に変更し、これまでの図書館の既成概念を大きく超えたものとなっている。
- ・自家用車や電車など、施設へのアクセス方法により利用者の傾向も大きく変わるので、施設の設置には、立地場所も重要である。

C委員

- ・私は、高校まで四日市で暮らし、両親は、現在も四日市在住と四日市との関わりは深い。現在はファンドマネージャーをしている。
- ・公的機関との関わりは、現在住んでいる藤沢市の外部委員として、市庁舎建替え事業に携わった。
- ・今後の社会状況は、人口減少、少子高齢化とより深刻な状況になっていくという認識である。
- ・仕事の性質上、企業の社長等と面談することが多く、年間 400 社程の企業の方と話をする機会がある。その中で、今回の検討会議の議題について情報交換を行った結果を、いくつかの可能性をご提案したい。また、内容は、該当の企業から直接説明を受けることも可能である。
 - ①デジタル書籍関連企業からは、電子図書館の可能性
 - ②総務省の ICT まちづくり事業を受託している、音楽、マンガ、健康の分野で携帯電話のアプリケーションを活用する企業からは、母子手帳の電子化など少子高齢化対策の取り組みの可能性
 - ③鳥取市から健康増進のための講座開設などの事業を受託するフィットネス分野の企業からは、健康寿命を延ばすための取り組みの可能性
- ・四日市は、これまで、港やコンビニート、現在も半導体といったように、先進分野の産業にいち早く着手し、産業振興を果たしてきた。
- ・人口減少・高齢化社会が深刻化する時代を向かえるにあたり、四日市が持つ先取りの特性を発揮する取り組みが望まれる。

ゲスト・スピーカー E様

- ・私は、四日市で生まれ、大学、企業と約 20 年間市外で暮らし、四日市へ帰ってきた。
- ・すわ公園交流館のリニューアル後、施設の管理運営を通じ市民主体となった活動に携わってきた。
- ・交流館単体では効果が限定的であり、中心市街地内にさらに 1～2 つ拠点となる施設があると相乗的な効果が生まれ活性化がより期待できると考える。
- ・商店街振興組合は、駐車場の建設を目的として設置した経緯があるため、現在でもその意識が完全に抜け切れていないと感じる。
- ・最近、介護分野の事業も手掛けているが、この分野は、非常に厳しい現実があると感じている。地方創生の基本方針にも高齢化への対応が位置付けられており、

市としても非常に重要な分野であると感じている。

- ・このような認識のもと、サンシ前の再開発ビルにおいて、高齢化に対応した内容を考えており、今後も、市民のニーズにあった機能が必要であると感じている。

ゲスト・スピーカー F様

- ・私は、岡山出身で、大学、就職を契機に三重県、四日市に住んでいる。
- ・多くの人に設計事務所というものを知ってもらえるよう、6、7年前に商店街の中に設計事務所を開設した。
- ・商店街への印象は外から見るのと、中から見るとでは随分と変わった。
- ・大学の卒業設計で、テーマを四日市とし、港を絡めて提案を行った。
- ・四日市は、まちづくりにおいて、港がうまく活用されていないと感じる。
- ・まちづくりには、地道な人間関係の構築や歴史などを知ることが重要である。
- ・市民が何を求め、機能として何が必要かということを丁寧にステップアップしていくべきである。
- ・ハード整備は、中心市街地にどのような機能が必要かということから考えるべきである

委員長

- ・論点を少し整理したい。
- ・ハードありきではない。市民が必要とするプログラムがあり、それを実行するためのハードづくりである。
 - ①どのような人に対して、どのようなアクティビティを提供していくのか
 - ②四日市は交通の便が良い都市といえるが、シティプロモーションの対象は、どの範囲を想定しているのか
 - ③近鉄四日市駅の西と東では性格が異なるように、公有地・公共性の高い場所を念頭に施設整備を探っていくうえで、中心市街地内のどこが最も施設整備に適した場所なのかも重要である。

A委員

- ・当初は、図書館など1つのテーマに限定せず、幅広く議論するべきである。
- ・市民が郷土愛を持ちたくなるようなものがあるといいのではないか。
- ・検討にあたっては、5W1Hで、人間軸（住民、行政、政治家、事業家等）、時間軸、空間軸（場所、移動手段）で最適化を考える。
- ・絶えず、革新し続ける必要がある。
- ・呼応、シンクロ、共創（co-creation）がキーワード

C委員

- ・コンテンツの良し悪しを考えると、人が集まるコンテンツが良いコンテンツで

あるとすれば、人が集まっている図書館は、良いコンテンツと判断できる。

- ・時代とともに求められるコンテンツが変化することを考えると、スマートフォンが、アプリによりさまざまな機能を付加していけるように、その時代に対応できる拡張性を有するものが良いのではないか。
- ・ネットライフでいえば、電子母子手帳のように、市民に対して新しいライフスタイルを啓蒙できるようなものになると良い。
- ・ネットライフ先進都市として、シティプロモーションにも繋がるのではないか。

委員長

- ・行政から発信している、将来の生活像、いきいきと暮らせる場としての都市像が、市民にあまり伝わっていない印象を受ける。
- ・まつりは、地域コミュニティのプラットフォーム、担い手がさらにネットワークを広げていくものである。
- ・ハードについても、ニーズは次々と変化するものであり、しなやかに、柔軟に対応できることが必要である。
- ・ネットライフについては、日頃、デジタルに距離があるような人にとっても、決して別世界の話ではなくもっと身近なものという実感が得られるようなサポートが必要なのではないか。
- ・中心市街地活性化のより具体的なイメージについて、ここで一度市から改めて説明を受けたい。

副市長

- ・何もしなければただのまちになってしまう危険性があることが地方創生の背景としてある。
- ・本市の産業はこれまでそれぞれの分野の少し先を行き維持をしてきた
- ・これからは、交流人口を増やしていくことを強く意識していく。
- ・まず、市民が自分のまちの魅力を再認識することが重要である
- ・特に、中心市街地が、中学生や高校生といった若い世代に魅力的なものとなり、かつてのように目的地として訪れてもらえる場にしたい。
- ・よりスピード感を持って事業を推進するため、公有地を候補地としている。

B委員

- ・不動産開発の視点から、東京の都心部の状況をご紹介したい。
- ・オフィスは供給過多、商業については、オーバーストア状態である。
- ・欧米と違い日本は、住む、働く、商業がゾーンで分かれている。
- ・日本の都心部では利便性の高い都心部に居住する人が増加傾向にある。
- ・資料から、四日市でも中心部でのマンション建設が進んでおり、中心部の居住ニーズが高まっているのを見て取れるが、居住をさらに増加させるために、いかに住みたくなるエリアにしていくかが重要である。

- ・海外からのインバウンドを推進するための昇竜道プロジェクトのルート内に四日市はあるが、インバウンドの取り込みよりは、居住者を増加させることから始めるのが良いと考える。

D委員

- ・空間内のソフトを変更することは可能だが、空間の立地場所は、容易に変更することはできない。よって、立地場所の選定は非常に重要である。
- ・コンテンツは、その場所にしかないものをつくることが大切である。

ゲスト・スピーカー E様

- ・イベントは一過性であってはいけないと思っており、まちづくりのマーケティング活動の一環である。
- ・イベントで実施したことを検証して集客力の高いものを探り、その内容を店舗で活かしていく。
- ・四日市は、現代においても宿場町であると思っている。目的地ではないが、滞在、通過するには、利便性の高いまちであるので、そこを高めていくことが大切である。

ゲスト・スピーカー F様

- ・まず初めに何を作るかを考え、それをどう発信するかが、シティプロモーションへと繋がると考える。
- ・四日市の都市計画や都市の将来ビジョンが見えてこない
- ・シティプロモーションというが、市内の道路状況一つとっても、スムーズに目的地に行けないなど、外部の人を受け入れる姿勢ができていないと常日頃感じる。
- ・中心市街地内に東海道が通っているなど、歴史を一つずつひも解いて着実に積み上げていくことが大事である。
- ・四日市の文化会館は、中心部から少し離れており、車での利用が多いため、利用後はそのまま家へと帰ってしまい、中心部との連携が悪い。
- ・中心市街地内に新たな施設を整備するのであれば、現在、飲食店が増えているので、施設利用後に飲食店を利用するといった相乗的な効果が見込まれるものが多い。
- ・先進事例としては、仙台メディアテークがあげられる。その前の大通りも四日市の中央通りと同じような構造であるにも関わらず有効に活用されている。
- ・仙台には何があり、四日市には何が無いかを良く研究してみると活性化のヒントがあるのではないかと。

委員長

- ・既存の都心のインフラの価値や魅力を再評価・再確認が必要である
- ・複数のプログラムの選択性を議論

- ・ 配布した資料を再度見ておいてほしい（特に地価について）
- ・ 用途・機能を中心においた施設ありきの議論ではないが、場所の性格も検討しマッチングしていかないと道を誤るであろう

■ 次回の予定

平成 27 年 12 月 25 日(金)13:00～

四日市商工会議所 3 階 大会議室